

# AGU 青山学院大学 NEWS No.44

AGUニュース第44号  
[2008年11月～12月号]

青山学院大学・広報入試センター広報課  
〒150-8366 東京都渋谷区渋谷4-4-25  
TEL.03-3409-8111(代表)  
URL <http://www.aoyama.ac.jp/agunews/>



青山キャンパス

特集  AOYAMA GAKUIN UNIVERSITY

院長としての18年を振り返って 青山学院名誉院長・前院長 深町 正信

理工学部特集 世界的に注目される研究成果を  
多彩な分野において次々に発表!!

## AGU TOPIC

「青山キャンパス再開発」の建設計画が進行中

日々変化する“街の表情”を生きた教材に。「社会学連携研究センター(SACRE)」の役割と教育効果  
自分のイメージとは異なる“現実”が現地にはある——。NPO法人の事務局長として子どもたちの教育支援に参加

## TOPICS

魅せる! 青学スポーツ

### 報告・お知らせ

2008年度青山祭・実行委員長メッセージ  
2008年度給付奨学金・学業奨励賞  
2008年度課外教育プログラム活動報告  
青山学院大学後援会報告

### 誌上公開講座

テーマ別科目 人間理解関連科目  
「音楽A」

### INFORMATION

2008年度就職支援関係行事日程  
オープンキャンパス開催報告

# 院長としての18年を振り返って

青山学院名誉院長・前院長  
深町 正信

1990年に青山学院の第12代院長に就任された深町正信先生が、2008年6月末日をもって院長の職を退任されました。青山学院、とくに青山学院大学の変革期を支え、今日の本学の成長に大きな貢献を残していただいた深町先生に、18年間の軌跡を振り返りつつ、青山学院大学への強く熱い思いを、「退任のあいさつ」に代えて語っていただきました。



## 青山学院大学とのつながり ——父、弟、そして私

今思えば、私と青山学院との間には、昔から何かしらの“ご縁”があったのだとつくづく感じています。私の父親は、青山学院の卒業生でした。そのため、私も青山学院大学の神学科に進み、牧師の道を目指すのだろうと思っていたのです。ところが父親からは、「東京神学大学に進みなさい」と言われました。今と違って父親の威厳は絶対の時代です。私は父親の言葉に従って東京神学大学に進みました。何故自分の母校である青山学院大学を父が薦めなかったのか。その真意はわかりません。ただ私の弟は青山学院大学に進学しているので、決して母校に何か嫌な思いを抱いていたわけではないことは確かです。

実は、その弟が、大学に入学して1年後に急逝しました。弟は教育者を目指していたのですが、「兄さんは牧師として、僕は教育を通して神様に仕

えたい」と、いつも言っていたのです。私は東京神学大学を卒業後、同大学院で修士号を取得し、その後、米国デューク大学大学院に留学。そして帰国してからは都内のいくつかの教会で牧師を務めました。しかし、いつまでも弟の言葉が忘れられなかった私は、弟の遺志を受け継ぐ決意を固め、牧師を務めつつ、いくつかの大学で非常勤講師としてキリスト教教育に関わったのです。そんなときに、当時青山学院女子短期大学で学長を務められていた幸田三郎先生から「ぜひ本校でもキリスト教教育を」とお誘いを受け、1973年に短大で教壇に立つことになり、そして、その2年後には大学の方でも教えることになりました。それが青山学院大学と私の最初の“出会い”です。

教壇にも立っていたとはいえ、私の本職は牧師。その後も都内の教会で神様に仕える生活が続けていました。ちょうど大学紛争のころで、青山学院も大きな打撃を受けていた時代です。当時の大木金次郎院長は、青山学院の再建にはもう一度、建学の精神である「キリスト教教育」に健全な形で取り組む必要があると考え、卒業生で熱心な伝道者でもある佐々木蔵之助先生を米国から宗教部長として招きました。そして私のもとにも大木院長と当時の保坂榮一学長直々に「青学の再建に力を貸してほしい」との主旨の長文の手紙が届き、また佐々木宗教部長からも「助けてほしい」と請われたのです。もちろん教会と

いう仕事場には未練があり、とても悩みました。しかし結果的には、父親の母校でもあり、弟も学んだ青山学院大学に、1984年から正式にお世話になることを決意したのです。そのときは、国際政治経済学部教授と、宗教主任が私の肩書でした。その後1987年には米国に戻られた佐々木先生に代わり宗教部長に就任。そして1989年の大木金次郎院長の急逝に遭い、翌1990年より青山学院の院長という大役を担うことになったのです。院長就任時は、「私のようなものでお役に立てるなら、1年だけでもやりましょう」といった気持ちでした。まさかそのまま、5期半ば、約18年にわたって院長を続けることになるとは思いませんでした。

## キリスト教教育を基盤に、時代を切り開く

院長としての18年間を振り返り、あらためて青山学院大学は日本の教育界をリードする存在であったことを実感しております。常に時代に対して敏感であり、日本の、そして世界の一步先を見据えながら改組・改編も行ってきました。現在、一般の方々が、高等教育機関である大学に最も期待することは、インターナショナル時代に対応できるプロフェッショナルな人材の育成です。そういう意味では、私も教員としてお世話になった「国際政治経済学部」の設立、そしてその後の成長などは、時代の先端を行く青山学院大学の好例ではないでしょうか。最近こそ他大学にも多く見られるようになりましたが、当時「国際」と名の付く学部名は画期的でしたから。もちろん本学には、他学部においても、多彩な留学制度など、学生たちが国際交流に積極的に親しめる環境が十二分に用意されています。考えてみれば、青山学院大学はキリスト教の精神を根本に持つ大学です。我々の視線が広く海外に向けられていることは、至って自然なことなのかもしれません。

就任当初より私は常々、「雰囲気教育」の大切さを説いてきました。キャンパスに一步足を踏み入れたときに感じる「雰囲気」によって、その大学の特色やポリシーなど、大切にしていることが見えてくるものです。落ち着いたチャペルがあり、賛美歌が流れ、生き生きとした学生の笑顔で満ち溢れるキャンパス。そんな“雰囲気”が心豊かな人を育てることにもなるのです。青山学院大学における「雰囲気教育」は、最高の環境にあると私は考えております。

そして当然ながら、雰囲気を生み出す“中身”が肝要です。それは単に学問的要素のみを言っているわけではありません。キリスト教教育を基盤とする、もっと心の奥深くにあるもの。たとえば、世の中の「善」について、

あるいは「命の尊厳」について。そう、人が生きる上での根本的な価値観の問題です。私はそれを「価値導入の教育」と呼んでいます。青山学院全学の中で、共通する「雰囲気教育」や「価値導入の教育」が、人間としての基礎をしっかりと育て、社会に貢献できる卒業生たちを輩出してきたのだと、私は考えています。

以前、青山学院大学の卒業生で、日本航空の北米エリアの責任者として勤務している男性とお話する機会があり、その際に「青山学院大学の良さはどこにあると思いますか？」と問いかけてみました。彼曰く「後輩たちを見ていて感じるの、とても明るく、前向きで、誠実。何か間違ったときには素直に謝り、さらにもう一度チャレンジする気持ちがあるところだ」との答えが返ってきました。さらには「院長、この青山らしさは、いつまでも消さないでくださいよ」とも言われたのです。そのとき、私も実は同じようなことを青山学院大学の学生たちを見て感じていましたので、とてもうれしかったのを覚えています。つまりは、失敗したときは「ごめんなさい」と素直に間違いを認め、その失敗をやり直すだけの強い「力」を持っている点です。この伝統はスポーツをしている学生たちにも言えることだと思います。敗戦をバネに強くなれる精神力や忍耐力を備えているからこそ、青山学院大学は多くのスポーツ競技でも優秀な成績を残し続けることができていなのでしょう。

## 青山学院のさらなる成長を祈りつつ…

私が院長を務めて18年、毎年のように悩み続けたことがあります。それは、幼稚園から大学までの入学式や卒業式での式辞です。いつも同じことばかり言っているのは芸がありませんし、幼稚園と大学とでは、持ち出すべき話題も伝えるべき表現も全く異なります。いつも春先は頭を悩ませました(笑)。それでも青山学院として、決して変わることはない真理があり、その部分は幼稚園から大学まで、毎年のように同じ話を言い続けました。もちろん「建学の精神」です。青山学院に籍を置くからには、やはりキリスト教の精神を身につけてもらいたいと切に願っておりました。そして神が創造されたこの世界の本質を、自分自身の目で見て、手で触れて、しっかりと把握し、教員の導きのもと知識とし、知恵として社会に貢献してもらいたいと考えたのです。

新しい時代にはどんな分野においても新しい考え方が求められます。もちろん教育も同じことです。時代の声に耳を傾け、柔軟に対応することが必要です。青山学院大学には、来年度から「教育人間科学部」が新設され

ることになりました。私は、とても喜ばしいことだと考えています。なぜなら「心理」と「教育」との融合を掲げる新学部が、心の教育を大切にする青山学院大学らしい「教育者」の育成を実現してくれると期待しているからです。教育の世界に、今さまざまな逆風が吹いています。さらには教員免許の更新を始め、大きな改革期を迎えようとしています。そんな状況だからこそ、“良い先生”を育てることが大切なのです。教育の危機は未来を暗澹とさせ、社会の危機へと直結します。各学部でキリスト教主義の青山学院大学ならではの、心の通った愛の教育を実践できる人間を育ててもらいたいと思います。それがきつと、日本の明るい未来へとつながるはずです。

教育人間科学部の新設、あるいは青山キャンパス再構築その他を見てもわかるように、青山学院大学は、まだまだ成長を続けている段階です。これからは院長として学院の成長に関わることはできませんが、それでももちろん、青山学院に対する愛情は、退任した後も変わることはないでしょう。今後のさらなる充実を心より祈りつつ、退任いたします。みなさま長い間、ご協力ご支援本当にありがとうございました。



『青山学院大学新聞』(1990年9月15日46号)



『ひとりひとりを大切に教育』(2006年8月15日発行)

# 世界的に注目される研究成果を 多彩な分野において次々に発表!!

最先端の研究に“夢”を持ってチャレンジを続ける。私たち理工学部、これからもご期待ください。



理工学部長 辻 正重

6学科を備え、約500名の学生が学ぶ本学の理工学部は、規模としては決して大きくなく、どちらかと言えば小さな部類に入ります。それでも常に最先端の研究に取り組んでいるという自負を全教員が持っています。その“自負”は、“夢”と置き換えることができるかもしれません。われわれの分野は、実験や研究の成果が出たときにだけ注目されがちです。しかし、その裏には何度も繰り返

返した失敗が隠れています。何度失敗してもあきらめない情熱を持ち、そして未来を見据えた大きな“夢”を抱いた人物でなければ、成功を導き出すことはできないのです。

今回も阿部准教授、重里教授、春山准教授の3名の先生方の研究成果が紹介されています。どの研究も行く行くは、我々の生活に密着した部分での応用が期待されている分野です。こうした“人の夢”にチャレンジする先生方がたくさんいることが、本学理工学部の特色であり、誇りでもあります。これからも時代の最先端への挑戦を続ける理工学部に、ぜひともご期待ください。



理工学部 化学・生命科学科 阿部 二郎 准教授

## 化学・生命科学科の阿部 二郎准教授の研究グループが、 紫外線に反応して高速に発消色する有機化合物を開発

本学理工学部化学・生命科学科 阿部二郎准教授の研究グループ(藤田華奈さん・大学院修士課程1年、波多野さや佳さん・大学院修士課程2年、加藤大輔さん・大学院博士後期課程1年)では、紫外線を照射すると瞬時に無色から緑色に発色し、紫外線を遮ると瞬時に無色に戻る新しい有機化合物の開発に成功しました。これほど高速な発消色特性と高い発色濃度を併せ持った“有機フォクロミック化合物”の開発は世界初で、この研究成果はアメリカ化学会有機化学専門誌『Organic Letters』に発表されました。さらに、『ネイチャー(2008年7月3日号)』、およびアメリカ化学会機関誌『C&EN News(2008年7月7日号)』で研究ハイライトとして紹介されたのははじめ、アメリカの著名な科学ブログサイト『WIRED』など数多くのメディアにも取り上げられ、世界中で大きな反響を呼んでいます。

研究内容の詳細、および研究成果の背景について、阿部准教授にお話を聞きました。

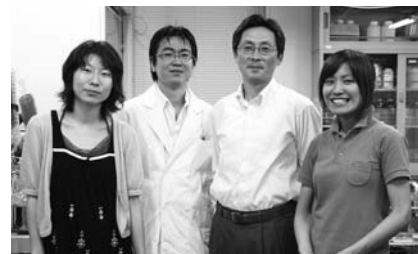
光の作用によって単一の化学種が、分子量を変えずに色の異なるふたつの異性体を可逆的に生成する現象を“フォクロミズム”といいます。そしてフォクロミズムを示す有機分子を“有機フォクロミック化合物”と呼び、これまでも「アズベンゼン」や「ジアリールエテン」など、いくつかの化合物が開発されてきました。今回の私の研究グループで注目したのは、「ヘキサリールビスイミダゾール(HABI)」という化合物です。HABI

は熱反応・光反応によって、反応活性の高い2分子の「トリアリールイミダゾールラジカル」に解離し、それぞれが媒体中を拡散します。紫外線の照射を止めると再びラジカル同士が拡散中の相手を探し出し、数分後にHABIに戻るのです。そこで我々は、解離したラジカルが再び結合するまでの時間短縮を図るべく、2つのラジカルをナフタレン骨格で結びつけた新しい有機フォクロミック化合物(1,8-NDPI-TPI-ナフタレン)の合成開発に成功しました。この化合物は紫外線に反応してラジカルが解離し、無色から緑色に発色しますが、2つのラジカルを結びつけたことで拡散することなく、紫外線の照射を遮ると瞬時にもとの形に戻るため、高速での消色が可能となるわけです。さらに2つのラジカルに異なる色を呈することで発色体は可視領域の光を全て吸収し、濃い緑色を実現しました。これまでも高速な発消色特性を示す有機フォクロミック化合物は知られていましたが、発色濃度が薄すぎるものばかりで、今回開発された化合物のように高い発色濃度の実現は世界初のことです。

この研究成果の産業面への応用ですが、最もイメージしていただきやすいのは、光に反応してレンズが発消色するサングラスではないでしょうか。太陽光に反応してレンズの色が変わるサングラスは現在もありますが、発消色に数分単位での時間がかかるため、トンネル通過時の車の運転などでは危険を伴いました。しかし太陽光の状況に瞬時に反応すれば、それらの問題もクリアできます。その他

にも調光フィルムや調光カーテン、さらには3Dディスプレイをはじめとする次世代情報表示メディアなど、考えられる用途はさまざま。現在は溶液に溶かしてその性質を研究している段階ですが、今後研究を積み重ね、固体化、フィルム化、そして製品化へとつなげていく予定です。

今回の研究は、文部科学省科学研究費特定領域研究「フォクロミズムの攻究とメカニカル機能の創出」(領域代表者:立教大学理学部 入江正浩教授)の研究プロジェクトの一環として進められているものです。入江教授をはじめ多くの方々のご支援をいただいたからこそ今回の評価につながったのだと思います。また同時に、これまで一緒に研究に取り組んでくれた大学院生たちの努力も見逃せません。一緒に悩み、一緒に苦しんだ研究室のスタッフであった岩堀史靖博士(現・日本大学文理学部専任講師)や菊地あづさ博士(現・横浜国立大学大学院工学研究院特別研究教員)にも大きな感謝の意を表します。今後も研究と教育とのバランスを保ちつつ、研究室としての取り組みを次のステップへと進めていきたいと考えています。



左から藤田さん、加藤さん、阿部准教授、波多野さん



理工学研究科機能物質創成コース 重里 有三 教授

## 理工学研究科機能物質創成コース修了生 久保 慶幸さんが ICCG7・Poster Award の1st Prize を受賞

2008年6月16日(月)～20日(金)、オランダのイントホーベン市で第7回無機薄膜に関する国際会議(ICCG7)が開催され、本学からは、大学院理工学研究科の重里有三研究室(理工学専攻機能物質創成コース)の研究成果3件を口頭、ならびにポスターで発表しました。そのうち、久保慶幸さん(2008年3月博士前期課程修了)の修士論文をまとめたポスターがPoster Awardの1st Prize(すべてのポスターから1件)を受賞。選考は参加した500名を超える研究者全員の投票により行われました。なお、久保さんの研究論文は、アメリカ物理学会(AIP)が発行する専門誌「Journal of Vacuum Science & Technology」の2008年7・8月号にもフルペーパーとして掲載されました。

ICCG7の会場で実際に久保さんの研究成果を他の参加者に解説した重里教授に、今回の受賞についてお話を聞きました。

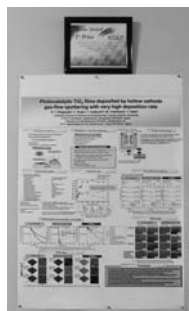
ICCG7は、無機薄膜の情報技術や環境技術への応用およびその基盤技術に関する国際会議です。1996年に、ドイツで第1回が行われて以来、2年ごとに欧州の都市で

開催され、EUを中心とした多くの国々の大学の公的研究機関、企業の研究者や技術者、生産、事業関係者などが集まります。

今回久保さんが賞を受けた研究は、特殊なプラズマ(電離気体)を用いたホロカソードガスフロースパッタ法による光触媒の合成方法に関するもので、環境浄化に大きな威力を発揮できる高性能な光触媒の超高速合成法を確立しました。研究に用いられた代表的な光触媒である酸化チタンは、従来のシリコンを用いた太陽電池より低コストな「色素増感太陽電池(グレッツェルセル)」をはじめ、環境技術への幅広い応用が可能です。EUの多くの研究者たちから圧倒的な支持を得ることができたのは、環境技術として実用化され、現実的に大きな役割を果たせる可能性がある基盤技術として高く評価されたためだと考えられます。また、光触媒の複雑な反応機構を解明するための突破口になりうるとの評価もいただきました。

重里研究室では、産学連携の取り組みとして、10年に

わたり株式会社ブリヂストンの中央研究所(研究開発本部)と共同研究を行ってきており、この研究もその中のひとつです。この連携により、「企業における実践を射程に入れた基礎研究」、「応用を想定した基盤技術の開発」に適した研究環境を大学の研究室内に整備することが可能になりました。また、大学院生たちに将来のキャリアパスを明確に示すことも可能になり、実践的なオン・ザ・リサーチ・トレーニング(ORT)を行っています。今回受賞した久保さんも在学時の共同研究に引き続き、4月からは同社に就職し企業における本格的な研究をスタートさせました。今後も粘り強く研究テーマに取り組み、大いに活躍してくれることを願っています。



理工学部 電気電子工学科 春山 純志 准教授

## 理工学部 春山 純志准教授の研究成果が、 米国物理学会誌等に掲載され、世界中で話題に

本学理工学部電気電子工学科 春山純志准教授の研究成果「ホウ素を注入したカーボンナノチューブ薄膜における超伝導発見」が、世界でも権威ある論文誌である米国物理学会誌「Physical Review Letters」にOnline掲載され(7月10日付)、大きな注目を集めています。春山准教授は2年前にも層状のカーボンナノチューブが超伝導になることを同誌に報告していますが、今回は研究内容にさらなる進化が見られました。この研究成果は、日本でも8月10日付の読売新聞(朝刊・科学面)に掲載されました。

今回の研究内容の詳細について、春山准教授にお話を聞きました。

カーボンナノチューブは、自然界に存在するナノ材料の一種です。直径が1nm(1mの10億分の1)しかなく、炭素原子でできたストロー状をしています。今回の研究のポイントは、ストロー状に開いた部分に、超伝導の種(キャリア)としてホウ素の濃度を調整しなが

ら注入することで、温度12K(12ケルビン: -261℃)で発現する超伝導の状態を制御することに世界で初めて成功した点です。

2年前は全く別の実験をしている際に、偶然にもカーボンナノチューブにおける超伝導を発見したものでした。そこで今回のプロジェクトは、その「偶然」を「必然」にすることから始めたのです。しかし、直径1nmというカーボンナノチューブは扱いが難しく、再現するのに一苦労。超伝導を起こすための種が「ホウ素」であることは分かったものの、なかなか「偶然」の域を超えられませんでした。そんなときに、私も付き合いがあったMIT(マサチューセッツ工科大学)の研究グループが、まさにカーボンナノチューブにホウ素を注入する実験を行っているとの情報を得、MITとともに研究を重ねることに。そしてついに、注入するホウ素の濃度によって超伝導の発生を制御できることを発見したのです。

まずは、ホウ素の濃度によって超伝導の発現性に違いが見られることに気がきました。し

かもホウ素の濃度が薄い方が、安定した超伝導の状態を現します。つまり少ない種で効率的に超伝導を発現させることが可能なわけです。

そして今回、もうひとつ大きな研究成果があります。それは、カーボンナノチューブをシリコンの基板の上に均一に積んで薄膜状にしたことです。すると非常に安定した超伝導状態の発現が見られました。さらに安定性に加えて、薄膜状にしたことで扱いが容易になり、超伝導トランジスタや量子コンピュータ、超伝導ナノ配線など、さまざまな分野への汎用性も広がったのです。

2年を費やし、ある程度の成果を得ることができました。しかし、今回は12Kと、2年前と超伝導を発現させる温度は変わっていません。超伝導の“宿命”とも呼べる高温へのチャレンジなど、我々の研究は、ようやく“スタートライン”です。

研究室HPアドレス

<http://www.ee.aoyama.ac.jp/Labs/j-haru-www/>



# 「青山キャンパス再開発」の建設計画が進行中

現在、青山キャンパスでは、新校舎・大学A棟（仮称）建設を中心とした再開発事業が進められています。特に大学A棟建設予定地にあたる12号館にあった厚生施設が仮設店舗で運営されるなど、工事期間中は、何かとご不便をおかけすることと思いますが、何卒ご理解とご協力をお願いいたします。

## 「青山学院購買会」は 6号館前の部室棟1階、 2号館1階にて営業しています。

学生からのニーズの高い書籍とPC関連商品を含む文具類は、6号館前に仮設されたプレハブの1階に店舗スペースを設けて販売しています。また食品と飲料水に関しては、2号館1階に「食品コーナー」を設けました。ぜひご利用ください。



書籍・文具  
(6号館前部室棟1階)  
営業時間 10:00~18:30

食品・飲料  
(2号館1階)  
営業時間 9:00~20:00



## 「学生食堂」の麺コーナーが移動しました。

学生食堂の従来の麺コーナーが、閉鎖される12号館の地下部分にあたることから、麺コーナーの位置をそれまでのスナックコーナーの場所（総合研究所ビル地下）に移動しました。なお、学生食堂のスナックコーナーは閉鎖しましたので、2号館1階の「食品コーナー」をご利用ください。



## 1号館の1階~3階に新しくトイレを設置しました。

12号館の閉鎖にともない、1号館をはじめ他の建物の教室を活用する割合が増えることとなりますが、学生の利便性を考慮し、1号館の各階に新しくトイレを設置しました。自動点消灯、ウォッシュレット機能（各階1室）、さらに女子トイレには便利なフィッシングボードも用意。清潔で快適なスペースとなっています。



## 青山の街の中に 21世紀の青山学院にふさわしい 文化の創造・発信拠点（クリエイティブ・コア）が誕生します。

2009年9月の供用開始を目的に、常青寮の跡地に、地上4階・地下1階建てのビルが建設されます。その核となる教育施設が「青山コミュニティラボ（ACL）」です。2008年度に開設された総合文化政策学部の演習・実習施設として、先進的な文化の創造・発信機能（クリエイティブ・コア）を担うとともに第一線で活躍するクリエイターと学生とのコラボレーションなど、実践的な学びが展開されます。

### 基本コンセプト

- 青山の街の中に立地するメリットを最大限に活用する。
  - ・青山 エリアで活躍する世界的なクリエイターの意見を参考にする。
  - ・地域 や社会にオープンな場とし、多くの優れたクリエイターやクリエイティブ・クラスが集まれる場所とする。
- 「アカデミックグランドデザイン」に基づき、21世紀の青山学院にふさわしい文化の創造・発信機能を加える。
  - ・在京 キー局の「サテライトスタジオ」を誘致する。
  - ・優れたクリエイターと学生とが交流することにより、青山学院の教育効果を高める。



- ・青山 エリアの文化創造を担う総合文化政策学部の先進的な教育設備機能を置く。
- 青山学院の教育研究および学生への支援を第一としつつ、同時に社会と連携し、青山エリアの文化的価値を高める。
  - ・エクステンションプログラムの講座提供の場として活用する。
  - ・インキュベーターや、事業家シーズの拠点としても活用できる方向とする。



## 日々変化する“街の表情”を生きた教材に。 「社会学連携研究センター (SACRE)」の役割と教育効果

今年の6月に、本学前のバス停の位置が少し正門寄りに移動し、停留所の名称も「南青山五丁目」から「青山学院前」に変更されました。実はこうした“街の変化”にも、本学のさまざまな取り組みが関係しています。現在、渋谷・原宿・青山エリアの商業・観光価値を高めるためのプロジェクトに、地域とともに取り組んでいるのが、本学の「社会学連携研究センター (SACRE)」です。今回は、SACRE所長を務める総合文化政策学部の井口典夫教授に、SACREの役割と学生たちへの教育効果についてお話を聞きました。



総合文化政策学部  
井口 典夫 教授  
SACRE所長

私は、国土交通省の「青山通りと街並みの景観を考える会」の委員長、および「青山通り景観設計会議」の座長を務めています。ちょうど本学の前を通る青山通りの宮益坂上交差点から青山一丁目交差点までの約2.3kmは、政府から景観重要道路として指定を受けており、将来的に世界にも誇れる美しい街路空間へと整備される予定です。こうした事業に積極的に貢献しているのが、2006年に本学に開設されたSACREです。

SACREは、2005年度の文部科学省「現代GP」に採択された「渋谷・原宿・青山を繋ぐ商業観光拠点の育成～本学の理念に基づく地域貢献の実践と社会学連携体制の拡充～」の取り組みの一環として設置されました。これまでに青山通り景観整備計画、原宿キャットストリート再生計画、渋谷駅東地区再開発計画などに取り組み、

大きな成果を挙げてきましたが、いずれも学生たちが協力してくれています。青山キャンパス周辺の街に主体的に関わることに、青学生として喜びを感じてくれたのではないのでしょうか。街に関わることは、地域や社会とつながることでもあります。結果的に“生きた教材”を前に、リアルな教育環境を学生に提供できたのが良かったのでは、と考えています。

例えば5年前、私のゼミが中心となって、本学正門横の歩道橋の一部を撤去し、横断歩道を設置した活動がスタートでした。学生と一緒にさまざまなデータを用意し、沿道マーケティングや通行シミュレーションを重ね、あきらめずに行動したことが、結果に結びついたので。“何事も熱意を持って行動すれば実現できる”ことを、私自身も学生から学んだのでした。

バス停の移動や名称変更のほか、新しい街路灯、植樹し直された木々、舗装された歩道など、ぼんやりと歩いているだけでは気付かない変化が、街にはたくさんあります。SACREでは、誰でも街の変化に直接関わり、商業ストリートづくりに参画することができます。こうした「青山エリアマーケティング」に興味ある学生は、どうぞ気軽に総研ビル5階にあるSACREをお訪ねください。



歩道橋撤去前



歩道橋一部撤去後



## 自分のイメージとは異なる“現実”が現地にはある——。 NPO法人の事務局長として子どもたちの教育支援に参加

国際政治経済学部の羽場久美子ゼミに所属する織田菜摘さん(国際経済学科4年)は、大学1年生から「NPO法人カンボジアの教育を支える会 (PACE)」の活動に参加し、支援を必要とするカンボジアの小学生たちの学校生活面をサポートしてきました。3回ほど現地にも赴き、実際に子どもたちとの交流も体験。また2007年6月から2008年6月までの1年間は、組織の事務局長も務めました。現地で学んだこと、さらには大学の学習との相乗効果などについて、織田さんにお話を聞きました。



国際政治経済学部  
国際経済学科4年  
織田 菜摘さん

高校時代から発展途上国や貧困国などに関心があり、機会があれば、「何か支援がしたい」とずっと考えていました。そんなときに友人から紹介されたのがPACEの活動です。PACEが支援するカンボジアの田舎にあるドントロー小学校では、児童数に対して教室や教員、また教科書が足りず、十分な教育を受けられない状況でした。現地の子どものために何ができるのか…。それをPACEのメンバーである学生が集まり、自分たちで企画、運営、実行するのです。イベントで集めた募金を校舎の建築や教科書の購入に充てたり、実際にカンボジアで子どもたちと交流したり、また学校周辺の村の視察なども行いました。現地を見たことで、いかに日本が恵まれた環境にあるかが痛いほどわかるとともに、“彼らのために何かしてあげたい”との思いが、さらに強くなりました。

PACEは、現地での支援以外にも、日本国内でのチャリティイベントやPR活動など、数々の行事があり、年間を通して忙しく活動しています。全体を管理する事務局長を務めたときは、組織の運営面の問題や社会人の方との交渉事など、初めての経験の連続で、体力的にも精神的にも大変でした。でも普通の学生生活では味わえない経験ができたので、今は事務局長を務めて良かったと思っています。

も大変でした。でも普通の学生生活では味わえない経験ができたので、今は事務局長を務めて良かったと思っています。

こうしてカンボジア関連のイベントばかりに関わると、どうしても視野が狭くなりがち。そんなときに羽場ゼミで欧米の話題について幅広く学ぶことで、自分の中ではバランスが取れていたように感じています。また「現地主義」の羽場先生にも影響を受け、長期休暇にはカンボジアだけでなく、ベトナム、ケニア、アメリカ、中国、フランスなど、時間とアルバイト代が許す限り海外に行きました。日本で話を聞くだけでは理解できない、現実の世界が現地には数多くあるので、本当の意味で自分自身の視野を広げることができたと実感しています。応援いただいた羽場先生をはじめ、国際政治経済学部で学んだことすべてに感謝の気持ちで一杯です。



国際政治経済学部  
国際政治学科  
羽場 久美子 教授

私は長い間「国際関係・国際社会」を教えてきたため、ゼミ卒業生は「世界に羽場たく」をモットーに、世界銀行や国連、JICAやJETRO、NHK、読売新聞、海外大学院などで幅広く活躍しています。そのため当初から織田さんのカンボジアでの現地活動には心より感心し応援してきました。織田さんはとても明るく国際的な現場感覚を持ち、人を引きつけて離さない魅力があります。

青学生は理論には強いが現地に赴き関わっていく行動力には若干欠ける印象。そんな中で何度も現地に飛んで教育支援に尽力する織田さんのエネルギーは、周りにもとても大きな影響を与えてきたと思います。今後も織田さんたちを筆頭に国際社会に求められる人材が青学生から多数育ってくれることを願い、それを後押ししたいと思います。

# 魅せる! 青学スポーツ

## 男子バスケットボール部が、関東大学バスケットボール選手権で優勝“3冠”への第一関門を突破

第57回関東大学バスケットボール選手権大会において、本学男子バスケットボール部が7年ぶり4度目の優勝を果たしました。昨年は全日本選手権を制して日本一となった男子バスケットボール部でしたが、本大会ではまさかの初戦敗退。新チームとはいえ、リベンジを誓った大会でした。初戦、2回戦と苦戦を強いられたものの、徐々に自分たちのプレーを取り戻し、2008年6月1日(日)の決勝戦では、法政大学に82-60で勝利。昨年の雪辱を果たすとともに、関東大学選手権、秋の関東大学リーグ戦、全日本大学選手権と、ビッグタイトルの3冠制覇に向けて、まずは幸先のよいスタートを切りました。

本大会優勝の喜びの声、および秋以降の抱負について、長谷川健志監督、荒尾岳選手(本大会MVP)、小林高晃選手(本大会優秀選手賞)、渡邊裕規選手(本大会優秀選手賞)に、お話を聞きました。

### 男子バスケットボール部監督 長谷川 健志



昨年のチームのスターターが5人のうち3人残っていたので、新チームとはいえ、他大学と比べても戦力的な心配はあまり感じていませんでした。それより4年生が少ないこともあり、はっきりとしたチームリーダーとなる存在が見あたらない部分が今年の不安点ですね。ただし若いチームだけに、勝つことで学べるが多くあり、苦しみながらも最後まで勝ち抜けた結果は、秋以降に向けて大きなチーム力向上につながったと思います。

私は常日頃から、「大学でバスケットボールをすることが、将来、社会に出てからの生活にも役立つ」と意味がない」と、選手たちに言っています。チームの中で自分の役割をしっかりと理解し、今何をし、どう動き、勝利に貢献すべきかを判断する。これらのことは、会社や組織での仕事と全く同じだと思うのです。そういう意味でも、「リーダーシップ」をはじめ、一人ひとりの「個性」や周囲との「コミュニケーション」など、選手たちが身につけるべきスキル、そしてクリアすべき課題は、まだまだたくさんあります。選手全員が日々成長することで、チーム全体のレベルアップを目指してもらいたいですね。

関東大学選手権大会の優勝はうれしいことですが、私たちの気持ちは、既に秋の関東大学リーグ戦と全日本大学選手権に向いています。ここで負けてしまえば、春の優勝の価値も半減してしまいますので、良い結果を残せるようチーム一丸となって練習に励むつもりです。ぜひ、みなさまの大きなご声援をよろしくお願ひいたします。



### 荒尾 岳 君 国際政治経済学部国際経済学科4年



昨年の関東大学選手権は1回戦で敗退し、かなり悔しい思いをしたので、今年は選手全員かなり気合いが入っていました。最初は、その気合いが空回りしていた部分もあって苦戦しましたが、試合を重ねるごとに修正できたと思います。昨年のリベンジを果たせてうれしいというより、ホッとしたのが正直な気持ちです。結果的に僕がMVPをいただきましたが、これもチーム全員の力で

らったものだと考えています。

今年のチームは4年生が少なく、3年生以下が中心のチームなので、まだまだ成長途中。その分これからのリーグ戦、全日本大学選手権を通じてもっともっと強くなれるはず。ただ日本一になった昨年のチームに比べると選手の身長が全体的に低くなりました。“高さ”の勝負では、僕が一番の長身となるので、リバウンドは全部取るくらいの気持ちでチームの「3冠」に貢献したいと思います。

### 小林 高晃 君 経営学部経営学科3年



チャレンジャーの気持ちで臨んだ関東大学選手権は、個人的にもチーム全体としても、今ひとつ調子が出ないまま終わってしまった気がします。それでも優勝できたことは、逆に大きな自信になりました。関東の大学で「3冠」を目指す資格があるのは青学だけなので、ぜひ念願の3冠制覇を達成したいと思います。

とはいえ、長丁場の秋のリーグ戦とレベルの高い全日本大学選手権は、中途半端な準備では勝てません。チーム全員が実力+αのものを出せるように頑張りたいです。とくに今年は“高さ”より“スピード”で勝負するのがチームのスタイル。そのなかで誰よりもコート内を走り回って勝利に貢献するつもりです。僕の速攻と粘りのディフェンスを見てください!

### 渡邊 裕規 君 国際政治経済学部国際経済学科3年



昨年の1回戦負けの悪夢があったので、関東大学選手権の優勝は素直にうれしいです。絶対に勝つしかない、と思っていましたから。しかし僕たちの目標はまだ先にあります。ここで満足しては、チームとしても個人としても成長できません。おそらくチーム全員が、同じ気持ちのはずです。この春の結果をステップとして、秋以降もしっかりと結果を残したいと思います。

スピード感あふれるバスケットボールは、生で観戦すると、その迫力が倍増します。秋のリーグ戦は相模原キャンパスでも試合が予定されていますし、選手全員がひとつになって勝ちにいく“青学のバスケットボール”をぜひ応援に来てください。必ず感動できるプレーをお見せします!



北京オリンピックで盛り上がった2008年夏のスポーツ界。

本学の体育会各団体も春季から夏季にかけて、厳しい練習で培った技術やタフな精神力を武器に、素晴らしい成績を収めています。今回は男子バスケットボール部、硬式野球部、フェンシング部にスポットを当て、その魅力に迫りました。

## 河原井監督率いる大学日本代表に、硬式野球部の高島主将と井上投手が選出 世界大学野球選手権とハーレム・ベースボールウィークに出場

2008年7月4日(金)～13日(日)に開催された「第24回ハーレム・ベースボールウィーク(オランダ)」、続いて7月17日(木)～27日(日)に開催された「第4回世界大学野球選手権大会(チェコ・ブルノほか)」の大学日本代表に、本学硬式野球部の高島毅主将と井上雄介投手が選出されました。両選手は代表監督を務める本学硬式野球部の河原井正雄監督とともに「世界」に挑戦。大学日本代表は、ハーレム・ベースボールウィークでは4位、世界大学野球選手権大会では準優勝の成績を残しました。河原井監督、高島、井上両選手に、今回の世界大会を振り返ってもらいました。

硬式野球部監督 河原井 正雄



4位に終わった「ハーレム・ベースボールウィーク」ですが、本来の目標は「世界大学野球選手権大会」でした。予選から厳しい戦いの連続ながら、結果的に銀メダルを獲得できてホッとしています。私は国際大会では、準決勝が最大の山場だと考えています。準決勝に勝てば、後は金メダルか、最悪でも銀メダル。しかし準決勝に敗れて3位決定戦となれば、「メダルなし」の恐れもあります。この差は非常に大きく、選手のモチベーションがまったく異なるのです。準決勝で韓国を破った時点で「大役は果たせた」と思いました。

決勝は延長戦に突入し、結局はうちの井上投手が1点を取られて米国に惜敗しましたが、試合終了と同時に涙が溢れてきました。悔しさではなく、「いいチームだったな」との思いが込み上げてきたのです。本学からも高島と井上投手が参加し、大きな経験ができたと思います。彼らには国際大会で掴んだことを今後の野球人生に生かしてもらいたいですね。

高島 毅 君 経済学部経済学科4年



海外チームとの試合が続くうちに、自分のなかで「日本の代表」という思いが日に日に強くなってきました。参加したメンバーたちも同じ気持ちだったらしく、1試合1試合経験するごとに代表チームとしての「一体感」が出てきたと思います。それに連れて戦い方もよくなり、銀メダル獲得も、チームがまとまれた結果ではないでしょうか。結成1カ月のチームがこれだけ団結できるわけですから、何年も一緒に練習してきた青学野球部なら、もっと絆が深まるはず。日本代表チームに参加した経験を、青山学院大学の主将としての仕事にも生かしたいと考えています。

井上 雄介 君 文学部史学科4年



自分の野球人生のなかで、日本代表に選ばれたのは今回が初めての経験。思ったほど緊張はしませんでした。結果的には決勝戦で僕が勝ち越し点を取られてしまい、金メダルではなく銀メダルになりました。もちろん悔しいし、他の選手たちに申し訳ない気持ちもあります。でもそれ以上に、海外チーム相手に戦った経験が、自分の大きな財産になりました。決め球のカットボールが、海外の選手に通用して自信になりましたし、その決め球を生かすためのボールの必要性も実感。「世界に通用する」という目標を抱けただけでも、僕にとって貴重な1カ月となりました。

## フェンシング部の一柳 風未選手が、 世界ジュニア・カデ選手権のエペ部門で大健闘

一柳 風未 さん 文学部教育学科2年



2008年4月7日(月)～15日(火)に、イタリア・カタニーニ市で開催されたフェンシングのジュニア・カデ選手権大会のジュニア・エペ部門に、日本代表として一柳風未(いちやなぎ・ふみ)選手が出場しました。成績は3名出場の日本人では最高の54位を獲得。この選手権は20歳未満を対象にしたものでは世界最高峰の大会です(20歳未満がジュニア部、15歳未満がカデ部)。

一柳選手は、ヨーロッパやアメリカの強豪を相手にプール戦で3勝2敗と健闘、トーナメント戦では、アメリカ代表に惜しくも一回戦で敗れましたが、部門選手103名中54位と初体験の世界大会としては、大いに誇れる成績でした。帰国後、一柳選手にお話を聞きました。

フェンシングには、剣の種類と得点になる部分別に3種類の競技があります。大まかにいうと、胴体部分を突くと得点になるフルレ、腰から上を突くか切るサーブル、そして全身どこでも突くと得点になるエペです。私は身長が170cmあることから、高校時代に先輩からエペ向きといわれ、以来エペで試合をしています。今回の大会もジュニアのエペ部門に出場しました。

私はこの大会が、まったく初めての国際試合でした。はじめは緊張しましたが、いざ試合が始まるとしっかり集中できて、いい勝負ができたと思います。トーナメントで負けた相手は、シニア大会でも活躍しているアメリカの選手で、力の差を痛感しました。でも要所要所で、自分の技が通用することもわかり、たしかな手ごたえを得ることもできました。10月末には、韓国でアジア・ジュニア・カデ選手権大会がありますが、海外選手との経験を積み場だと考えて、チャレンジしていきます。

今年は北京五輪で太田雄貴選手(フルレ)が銀メダルを獲得し、日本でもフェンシングが注目されました。私も将来オリンピックに出場できれば最高ですね。大きな夢ですが、それを目指してこれからも練習を続けます。

## 2008年度青山祭。テーマは「AOYAMA meets YOU.」

今年の青山祭は、11月1日(土)から3日(月・祝)までの3日間、「AOYAMA meets YOU.」をテーマに開催されます。このテーマに込められた思い、そして今年の見所など、2008年度青山祭実行委員長からの“メッセージ”をお届けします。



2008年度青山祭実行委員会委員長  
中里 友君 (文学部英米文学科3年)

今年のテーマ「AOYAMA meets YOU.」の「AOYAMA」は青山祭が開催されるこのキャンパスを指し、「YOU」は青山祭に来場・参加して下さる方々一人ひとりを指します。そして、それを繋ぐ“meets”には「逢う、出迎える、触れる」などの意味があり、青山祭が、「来場者の方々に様々な出逢いある場所になってほしい」「みなさんと青山祭で新たな化学反応を起こそう」といった願いを込めました。

今年の見所としては、やはり中庭のステージ企画。特にミュージックフェスティバル&ダンスフェスティバルでは、激戦のオーディションを勝ち抜いたチームの熱いパフォーマンスが披露されます。ぜひ期待してください。

それと恒例となった後夜祭の「提灯行列」を今年も3日の夕方から開催します。一般の方々も含めて誰でも参加できますので、みんなで「246」を練り歩きましょう。

また、青山祭では環境問題を意識した取り組みも積極的にを行います。エコ容器使用の徹底や資源ゴミの分別など、いろいろとお手数をおかけしますが、エコに力を入れるのも青山祭の伝統です。みなさんのご協力をよろしくお願いいたします。

なお、各イベントの内容や著名人の方々による講演会などの最新情報は、青山祭ホームページ(<http://aoyamasai.com/>)で確認してください。青学生全員で青山祭を成功させましょう!



## 今年の「クリスマス・ツリー点火祭」は、11月28日(金)に開催

今年もアドヴェント(待降節:クリスマスまでの4週間)の季節が近づいてきました。本学恒例の「クリスマス・ツリー点火祭」を11月28日(金)の夕刻から青山・相模原両キャンパスにて開催いたします。ぜひご来場いただき、独特の光と音楽による空間をお楽しみください。今回は、相模原キャンパスの点火祭において、美しい「歌声」と「音色」を披露してくれる「大学聖歌隊」と「ハンドベル・クワイア」の隊長に、当日の「聞き所」を語ってもらいました。



大学聖歌隊 隊長  
梅田 謙君 (経営学部経営学科3年)

1年生で初めて点火祭に参加したときは、あまりの人の多さにびっくりしました。特に相模原の点火祭は、地元地域の方々も楽しみにしてくださり、毎年本当に多くの人で賑わいます。聖歌隊として年間に何度も公演を行います。おそらく点火祭が、最も多くの人前で歌う機会ではないでしょうか。それだけに30名の隊員全員、かなり気合いが入っていますので、ぜひ多くの方に合唱を聞いていただきたいです。今年は1年生の隊員が多いのでフレッシュな歌声をお届けできると思います。

青山学院大学の聖歌隊のように、選曲すべてが「聖歌」の合唱団は珍しく、それが私たちの特色でもあります。点火祭では、誰もが聞き馴染みのあるメロディーを用意する予定ですので、ぜひご期待ください。それと点火祭といえば、クリスマス気分をいち早く体感できるキャンパス全体の「雰囲気」も楽しみのひとつ。独特の空間作りに、私たちの歌声も一役買っています。当日は、私たちと一緒に楽しい時間を過ごしましょう。



ハンドベル・クワイア 隊長  
金井 照代さん (文学部日本文学科3年)

大学に入学して、初めてハンドベルの音色を聞いたとき、あまりの美しさに感動し、この感動を一人でも多くの人に伝えたいとの思いでハンドベル・クワイアに入りました。その思いは、隊長という大役を担った今年も変わりません。点火祭は、多くの人にハンドベルの音色を聞いていただける大きなチャンス。今年も心を込めた音色を、感動とともにみなさんにお届けしたいと思います。

春に1年生のメンバーを迎え入れて新チームが構成され、日々の練習、演奏旅行、学園祭など、数々の経験を積み重ねたうえで、満を持して点火祭を迎えます。当日は全員がベストコンディションで臨み、これまでの成果を存分に発揮するつもりです。また、ハンドベルの音色はもちろんですが、みんなが並んで演奏する隊型や、手でキラキラ光るベルの輝きなど、視覚的な部分にもご注目いただくと、より演奏を楽しめると思います。私たち演奏者とご来場いただいたみなさんとがひとつになり、全員で感動できる点火祭にしましょう。ぜひ相模原キャンパスにご来場ください。



# 2008年度 給付奨学金・学業奨励賞

青山学院大学給付奨学金は、各学部にも所属する2年生以上の学生で、前年度において卓越した学業成績をあげ、かつ人物において優れている者を対象に、有為な人材の育成に資することを目的に学資金が給付されます。また学業奨励賞も同様の資質を持つ学生を対象に、学業

奨励に資することを目的に贈られます。

2008年度は6月18日(水)、青山キャンパス ガウチャー記念礼拝堂にて授与式が行われました。

## 〈給付奨学金・学部〉

教育学科／細野 恵利奈  
 英米文学科／石川 瑛里奈  
 英米文学科／岩崎 夢奈  
 フランス文学科／杉山 明里  
 日本文学科／竹井 佑季子  
 史学科／相川 ルリコ  
 心理学科／長島 朋恵  
 経済学科／宮崎 裕子  
 経済学科／雨貝 謙一  
 経済学科／原田 和忠  
 法学科／梅澤 隼人  
 法学科／鷺田 梓  
 法学科／五十嵐 安那  
 経営学科／佐藤 美帆  
 経営学科／金 鍾徳  
 経営学科／菅原 沙織  
 物理・数理学科／長谷川 勤  
 化学・生命科学科／須藤 麻里  
 電気電子工学科／大神 真樹  
 機械創造工学科／和田 一正  
 経営システム工学科／川下 隆司  
 情報テクノロジー学科／塩澤 元  
 国際経済学科／井本 悠樹  
 国際経済学科／恒川 優香  
 国際コミュニケーション学科／大城 碧  
 国際コミュニケーション学科／近藤 麻里恵  
 第二部教育学科／坂本 伸章  
 第二部教育学科／武藤 衣美  
 第二部英米文学科／若狭 美絵  
 第二部経済学科／島田 紫  
 第二部経済学科／末永 啓  
 第二部経済学科／五十嵐 知喜  
 第二部経営学科／飯泉 京子  
 第二部経営学科／奈良 有樹  
 第二部経営学科／小佐野 光将

英米文学科／土屋 潔子  
 英米文学科／中島 香織  
 英米文学科／雨宮 健  
 英米文学科／佐藤 美紀  
 英米文学科／吉川 智子  
 英米文学科／蓬田 尚  
 フランス文学科／黒田 智美  
 フランス文学科／堂岡 沙帆  
 フランス文学科／小島 千明  
 フランス文学科／芝田 佑佳  
 フランス文学科／穴澤 紗織  
 日本文学科／吉田 さほ  
 日本文学科／岩田 麻莉子  
 日本文学科／松上 あかり  
 日本文学科／角屋 智栄  
 史学科／山本 由美子  
 史学科／加藤 典子  
 史学科／川口 恵利華  
 史学科／林 慧聡  
 心理学科／秋元 藍  
 心理学科／鈴木 研司  
 心理学科／中林 香  
 心理学科／本多 志帆  
 経済学科／猪口 公輔  
 経済学科／加藤 釈美良  
 経済学科／徐 雪霜  
 経済学科／関 貴裕  
 経済学科／宮崎 晃司  
 経済学科／井上 祐貴  
 経済学科／金本 広峻  
 経済学科／滝沢 恵美  
 経済学科／本多 聡志  
 経済学科／三好 春香  
 経済学科／櫻澤 知恵美  
 経済学科／野本 拓見  
 経済学科／茂登山 哲平  
 経済学科／横山 佳奈  
 経済学科／蘭 焱

法学科／小林 史典  
 法学科／白川 美穂  
 法学科／寺田 早織  
 法学科／山崎 里穂子  
 法学科／米本 英美  
 法学科／岡本 藍  
 法学科／嘉瀬 藍佳  
 法学科／小泉 多恵子  
 法学科／小宮 純季  
 法学科／渡部 真那海  
 法学科／岡田 ちひろ  
 法学科／中里 淳  
 法学科／中島 礼香  
 法学科／縫田 匠  
 法学科／星 宏明  
 経営学科／石井 佳織  
 経営学科／小山田 寛史  
 経営学科／原 聖来  
 経営学科／古川 由季子  
 経営学科／村瀬 友美  
 経営学科／劉 怡廷  
 経営学科／御給 好美  
 経営学科／鈴木 潤  
 経営学科／高橋 光生  
 経営学科／長尾 裕理香  
 経営学科／若林 雅人  
 経営学科／後藤 文江  
 経営学科／近藤 彩  
 経営学科／田口 弘幸  
 経営学科／中川 悠季  
 物理・数理学科／太田 麻由  
 物理・数理学科／白瀬 裕己  
 物理・数理学科／村山 健太  
 化学・生命科学科／稲垣 由紀  
 化学・生命科学科／岸田 哲明  
 化学・生命科学科／木戸 真保子  
 電気電子工学科／加藤 俊冴  
 電気電子工学科／川村 優明

電気電子工学科／北村 圭  
 機械創造工学科／中村 悠  
 機械創造工学科／蓮沼 将太  
 機械創造工学科／米澤 乃理  
 経営システム工学科／井出 貴也  
 経営システム工学科／南 陽子  
 経営システム工学科／中村 彩乃  
 情報テクノロジー学科／坂口 恵理  
 情報テクノロジー学科／西岡 晋太郎  
 情報テクノロジー学科／町田 孝介  
 国際政治学科／一松 紀子  
 国際政治学科／浅井 美佳  
 国際政治学科／橋本 弘美  
 国際経済学科／三田 友梨佳  
 国際経済学科／片野 沙織  
 国際経済学科／房本 亜希  
 国際コミュニケーション学科／井上 菜穂  
 第二部教育学科／山口 裕子  
 第二部教育学科／金澤 美和  
 第二部教育学科／高橋 美幸  
 第二部英米文学科／今井 盛仁  
 第二部英米文学科／遠藤 祐美  
 第二部英米文学科／中澤 規子  
 第二部経済学科／稲川 太白  
 第二部経済学科／古館 惇  
 第二部経済学科／湯川 卓真  
 第二部経済学科／川瀬 竜  
 第二部経済学科／草薙 長孝  
 第二部経済学科／深田 知利  
 第二部経済学科／志戸田 明良  
 第二部経済学科／三浦 拓史  
 第二部経済学科／藪 智子  
 第二部経営学科／渡邊 星美  
 第二部経営学科／永谷 直子  
 第二部経営学科／前田 光介  
 第二部経営学科／水上 はるゑ  
 第二部経営学科／柴草 博美  
 第二部経営学科／高畑 良子

## 〈給付奨学金・外国人留学生〉

経済学科／金 英實  
 経営学科／李 胤先  
 経営学科／金 慧英  
 経営学科／陈 李梅  
 経営学科／尹 美香  
 経営学科／金 美真  
 経営学科／申 智娟  
 国際経済学科／孫 榕

## 〈学業奨励賞〉

教育学科／三野村 由紀  
 教育学科／宇佐美 静香  
 教育学科／室伏 彩香  
 教育学科／金子 友香  
 教育学科／立石 浩子  
 英米文学科／折原 佳代  
 英米文学科／木下 彩加  
 英米文学科／ホラン 千秋  
 英米文学科／鮎川 美咲



# 2008年度課外教育プログラム活動報告

本学では、大学後援会のご支援の下、青山学院の教育方針を具現化すべく、課外教育プログラムを実施しています。2008年度9月に行われた行事を振り返ります。

## ●課外教育プログラム「ノートテイク」

2008年9月18日(木)、青山キャンパスにおいてノートテイク講習会が行われました。「ノートテイク」とは、発言者の声を文字に変えて伝える通訳方法のことで、「筆記通訳」「要約筆記」などとも呼ばれます。

講習では、まず初めに言葉を通して交わすコミュニケーションと、音声以外の手段として書いて伝えるコミュニケーションの違いについて考えていきました。大学では当たり前のこととして講義は言葉を通して行われますが、聴覚やその他に障害を持つ人にも学ぶ権利があり、そのような人たちの情報保障のためノートテイクが必要であることを参加者一人ひとりが理解できました。

その後は実際にノートテイクの基本的な書き方を学びました。普段自分で講義のノートをとるのは全く違い、話されたことを理解したうえで記憶し、それを他者が読めるように書いていくことの難しさに頭を悩まされながら



### 一課外教育プログラム 今後の予定ー 11月30日(日)

旬野菜の健康家庭料理(秋企画)  
企画・目的: 食文化を通しての異文化体験の場として、また食事作りを通して参加者の交流の機会を設定いたします。  
実施場所: 外部施設利用  
募集人数: 20名程度

## Club & Circle Information

問い合わせ先 〒150-8366  
青山学院大学学生部学生課  
Tel 03-3409-7835

\*主な文化連合会・体育連合会の活動予定。  
下記大会演奏会の日程・場所は予定のものです。今後変更になる可能性もあります。

### 主要活動予定(2008年10月~12月)

- 合気道部 第48回全国学生合気道演舞大会(12月)
- アイススケート部(ホッケー部門) 秋季関東大学アイスホッケーリーグ戦(10月~12月)
- アイススケート部(フィギュア部門) 東日本インカレ予選(10月)
- アメリカンフットボール部 秋季リーグ戦(10月~12月)
- 居合道部 第41回東日本学生居合道大会(10月)
- 第13回関東甲信越居合道大会・第23回全日本学生居合道大会(11月)
- 空手道部 秋季リーグ戦(10月)
- 剣道部 全日本学生剣道優勝大会(10月)
- 拳法部 東日本大学選手権大会(10月)
- 硬式庭球部 関東大学対抗テニス選手権大会(10月~12月)
- 硬式野球部 東都大学野球秋季リーグ戦(9月~10月)
- サッカー部 J.R.東日本カップ2008関東大学サッカーリーグ戦(後期)(9月~10月)
- 射撃部 全日本学生ライフル射撃選手権大会(10月)
- 柔道部 全日本学生柔道体重別選手権大会(10月)
- 準硬式野球部 東都大学準硬式野球秋季リーグ戦(10月)
- 漕艇部 全日本新人選手権大会(10月)
- ソフトテニス部(男子・女子) 関東学生秋季リーグ戦・東都大学秋季リーグ戦(10月)
- 卓球部(男子・女子) 全日本学生卓球選手権・国民体育大会・会長杯争奪卓球選手権大会(10月)
- 軟式野球部 秋季リーグ戦(10月)
- バスケットボール部(男子) 第84回関東大学バスケットボールリーグ戦(10月)
- バスケットボール部(女子) 関東女子学生バスケットボールリーグ戦(10月)
- 馬術部 東京都馬術大会・JRA馬場馬術大会・全日本学生馬術大会(10月)
- バドミントン部(男子・女子) 全日本学生バドミントン選手権大会(10月)
- バレーボール部(女子) 秋季関東大学女子1部バレーボールリーグ戦(10月)
- パワーリフティング部 第86回関東学生パワーリフティング大会(11月)
- フェンシング部 関東学生選手権大会・北岡杯・全日本学生選手権大会(10月)
- ボクシング部 大田区大会・東京都オープン戦(11月)
- 洋弓部 学連新人選手権大会(11月)
- ラグビー部 関東大会対抗戦(9月~12月)
- 陸上競技部(長距離ブロック) 箱根駅伝予選会(10月)
- レスリング部 国民体育大会・全日本大学グレコローマン選手権(10月)
- 全日本大学選手権・東日本学生秋季新人戦(11月) 天皇杯全日本選手権(12月)
- ラクロス同好会 秋季リーグ戦(11月~)
- ESS チャーチル杯(10月・11月)
- オーケストラ部 第93回定期演奏会(11月)
- オラトリオ・ソサエティ合唱団 第44回定期演奏会(10月) オール青山メサイア公演(12月)
- ギターアンサンブル部 定期演奏会(12月)
- 競技ダンス 天皇杯争奪学生競技ダンス対抗戦(11月)
- 箏尺八研究会 定期演奏会(10月)
- ロイヤルサウンズジャズオーケストラ 第40回定期演奏会(12月)

## News Index 2008.7~9

2008年7月から9月までの大学ウェブサイト「新着情報」の主なタイトルを掲載しています。

### 08年7月

- 菊池純一法学部教授が、平成20年度TEPIA知的財産事業学術奨励賞「TEPIA会長賞」を受賞
- 理工学部化学・生命科学科の阿部二郎准教授の研究成果が世界的に注目され、ネイチャー誌の研究ハイライトで紹介されました
- 外林秀之理工学部准教授が国際光学委員会(ICO)より「ICO Prize in Optics」を受賞
- 2009年度大学院入試募集要項を販売開始しました
- 丸宿俊文社会情報学部教授が代表をするNPOが第2回キッズデザイン賞コミュニケーションデザイン部門を受賞
- 大学院に「教育人間科学研究科」2009年4月設置が許可されました

### 08年8月

- 理工学部電気電子工学科 春山純志准教授らの研究成果が米国物理学会誌Physical Review Lettersおよび読売新聞に掲載されました
- 「青山学院スタイル2008」で経営学部芳賀康浩ゼミを紹介

### 08年9月

- 文部科学省の平成20年度「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」に選定されました
- 平成20年度大学院教育改革支援プログラムに理工学研究科の申請が採択されました
- 2009年4月大学院「総合文化政策学研究科文化創造マネジメント専攻修士課程」の設置が了承されました

# 青山学院大学後援会報告

2008年7月25日(金)、青山学院大学後援会評議員会(総会)がアイビーホール青学会館において開催されました。同後援会は、大学と家庭との連絡を密にして意思の疎通を図り、大学の教育および研究に必要な事業を援助する目的をもって設立された支援団体であり、青山学院大学に在籍する学生の父母ならびに保証人その他の有志によって構成されております。

主な事業は、下記の大学後援会予算案および決算報告書に示されているとおり、学友会活動補助等の学生活動に対する援助、首都圏並びに地区別に開催されるペアレンツウィークエンド(旧父母懇談会)の

開催諸経費等その内容は多岐にわたります。

評議員会は毎年1回7月に開催され、前年度の事業報告および決算報告、当年度の事業計画および予算案が審議され、あわせて役員を選出が行われます。

今回は、新会長に小見山満氏、新副会長に入江通氏、同じく新副会長に一瀬芳夫氏をはじめ、新任・継続あわせて72名の役員が選出されました。

評議員会終了後、場所を移し役員、本学院長代行並びに学長ほか大学教職員をまじえ、交歓のひとつがもたれました。

## 2007(平成19)年度 大学後援会決算報告書

収入の部 (単位 円)

科目	予算	決算	差異
前期繰越金	17,078,937	17,078,937	0
会費収入	103,300,000	105,332,000	△ 2,032,000
合計	120,378,937	122,410,937	△ 2,032,000

支出の部 (単位 円)

科目	予算	決算	差異
<b>学生活動関係</b>			
学友会活動補助	33,000,000	32,999,905	95
学友会活動指導補助	14,000,000	13,100,000	900,000
保険料	12,500,000	11,987,950	512,050
奨学金事業補助	10,000,000	10,000,000	0
大学行事補助	2,000,000	622,589	1,377,411
アドバイザーグループ会費補助	1,000,000	990,000	10,000
ゼミナール活動等補助	1,200,000	500,000	700,000
教育環境整備補助	15,000,000	15,000,000	0
奨励金	3,000,000	1,800,000	1,200,000
<b>後援会行事関係</b>			
父母懇談会費	20,000,000	17,565,315	2,434,685
旅費交通費	100,000	60,000	40,000
会議費	1,200,000	1,049,042	150,958
消耗品費	50,000	0	50,000
通信費	100,000	5,600	94,400
<b>教職員関係他</b>			
慶弔費	1,200,000	480,000	720,000
雑費	0	0	0
予備費	6,028,937	0	6,028,937
支出計	120,378,937	106,160,401	14,218,536
次期繰越金	0	16,250,536	△ 16,250,536
合計	120,378,937	122,410,937	△ 2,032,000

## 2008(平成20)年度 大学後援会予算

収入の部 (単位 円)

科目	2008年度予算	2007年度予算	差異	摘要
前期繰越金	16,250,536	17,078,937	△ 828,401	会費収入内訳
会費収入	104,960,000	103,300,000	1,660,000	第1部 @6,000円 × 15,520名 = 93,120,000円 大学院 @3,000円 × 1,320名 = 3,960,000円 第2部 @4,000円 × 1,970名 = 7,880,000円
合計	121,210,536	120,378,937	831,599	

支出の部 (単位 円)

科目	2008年度予算	2007年度予算	差異	摘要
<b>学生活動関係</b>				
学友会活動補助	35,000,000	33,000,000	2,000,000	学友会クラブ活動補助他
学友会活動指導補助	14,000,000	14,000,000	0	学友会指導者・監督への謝礼(交通費一部負担額)他
保険料	18,500,000	12,500,000	6,000,000	学生教育研究災害傷害保険(通学時含む)
奨学金事業補助	10,000,000	10,000,000	0	奨学資金への補助
大学行事補助	1,500,000	2,000,000	△ 500,000	大学行事補助
アドバイザーグループ会費補助	1,000,000	1,000,000	0	アドバイザーグループ会費補助
ゼミナール活動等補助	1,200,000	1,200,000	0	ゼミナール活動補助他
教育環境整備補助	10,000,000	15,000,000	△ 5,000,000	教育環境整備補助
奨励金	3,000,000	3,000,000	0	学業奨励他
<b>後援会行事関係</b>				
ペアレンツウィークエンド費	19,000,000	20,000,000	△ 1,000,000	首都圏及び地区別(旧称)父母懇談会開催諸費用
旅費交通費	100,000	100,000	0	事務連絡交通費
会議費	1,200,000	1,200,000	0	評議員会・懇親会費用
消耗品費	50,000	50,000	0	事務用消耗品
通信費	50,000	100,000	△ 50,000	役員会・評議員会通信費
<b>教職員関係他</b>				
慶弔費	600,000	1,200,000	△ 600,000	学生・教職員の弔慰用
雑費	0	0	0	
予備費	6,010,536	6,028,937	△ 18,401	
合計	121,210,536	120,378,937	831,599	

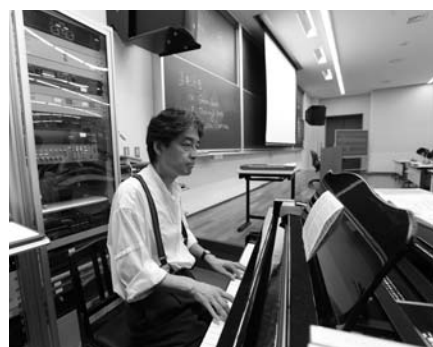
青山スタンダード  
 テーマ別科目 人間理解関連科目  
 「音楽A」



那須 輝彦  
 文学部史学科 教授  
 (西洋音楽史)

大学でもお歌を歌ったり笛吹いたりしてるのか、と早合点しないでください。教養科目の「音楽」は理論や歴史を中心とした講義。つまり実技ではなく、音楽を理性的に把握する能力を養い、学生諸君が豊かな知的人生を送るための礎を築くことが主眼です。「冗談じゃない。音楽はハートだ。アタマで理解するなんて、これだから大学は理屈っぽくていけない」と反発なさるあなたはあまりにイノセント。J-Popのヒットが周到な設計のもとに生産されている例を待つまでもなく、音楽創作には聴き手を満足させ、高揚させる知的な「術」があります。もちろん傑作を生み出すのは最終的には「才能」ですが、それ以前の段階で理性的訓練によって修得できる「術」があるのです。西洋音楽はとくにそうで、フーガの作曲に「術」が要るのは言うまでもないし、旋律にドミソの和音をつけるだけでも効果的な音の配置の常識があります。「作曲」を英語では'compose'といいますね。語源はラテン語の'compono'。'com'は「一緒に」で'pono'は「置く」ですから、語義は「一緒に置く put together」。つまり複数のパーツを正しい「術」で一緒に合わせて、見事な調和を構築するという設計にも似た営みが「作曲」なのであって、これに当たる英語が'create'ではないところに西洋音楽の本質が如実に現れています。

「才能」と「術」が見事に融合した古今の名曲というものが、いかに巧みに'com-*pose*'されているか、その匠の技を知る喜びは格別。



そのための西洋音楽の基本リテラシー(五線譜、音符、リズム、音程、和音、楽器など)を学んでゆくのがこのクラスです。では西洋音楽の理論は、そんなに冷徹で合理的なものなのかといいますが、これが試行錯誤と誤解の堆積みたいところもあって、すぐれて人間臭い営みの産物。なぜ楽譜は5線なのか、なぜ音記号やへ音記号はああいう意匠なのか、なぜ英語のB♭がドイツではBで、英語のBがドイツ語ではHなのか、そもそもなぜ#や♭はこういう記号なのか……何も奇をてらったわけではなく、みなそれなりの理由があります。それらを得心するためには中世ヨーロッパ人の思考回路を追体験しようとする努力が必要。つまり音楽理論を学ぶこともまた、広い意味で歴史や人間を理解しようとする営みなのです。

なるほど、それで最近では「人間理解科目」に「音楽」も置くのかとおっしゃるかもしれません。ところがどうして、「音楽」は中世ヨーロッパに大学が誕生した当初からあった最も由緒ある「学問」なのです。中世の大学が卒業までに課したのは次の7科目。下級3科目(ラテン

語文法、修辞学、論理学)、上級4科目(算術、音楽、幾何、天文学)。ね、「音楽」があるでしょう。でもなんだか突飛ですよ。この「音楽」こそ、実技ではなく、他の3科目と同様、自然科学系の「学問」<sup>サイエンス</sup>なのでした。教科書で説かれているのは古代ギリシアのピュタゴラスの音程理論。例えば弦の長さを半分にすると音はオクターヴ上がり、2/3にすると5度上がるとか。不思議ですよ。そう、ピュタゴラス派は、森羅万象の根源に数理的原理があり、星の運行も、図形も、そして音楽も、すべて数比によって秩序や調和<sup>ハーモニー</sup>が保たれていると考えました。この思想を受け継いだのが中世大学の上級4科目であり、「数」をキーワードにして自然界の諸現象——つまりは天地創造の神の摂理——を学ぶことこそ教養人の修めるべき高等教育だったというわけです。どうです、「音楽」は青山スタンダード科目の王道でしょう!



## 2008年度 就職支援関係行事日程

### 青山キャンパス

行事タイトル	対象者	日程	備考
就職ガイダンス(同一内容2回実施)	2009年度卒業生対象	9月24日(水) 27日(土)	2009年度卒業生対象の第1回就職ガイダンス。就職部長による講演と今後の支援スケジュール説明。4年生から聞き出すセッショントークを行います。
・マスコミ業界の採用動向	学部3年生・院1年生	9月29日(月)	マスコミ志望の学生のために、業界の採用動向や仕事の実態を説明。
・SPI対策模擬試験	学部3年生・院1年生	10月3日(金)	筆記試験の代表格であるSPI模擬試験を体験することで対策の方向性を明らかにします。
・Uターン就職	学部3年生・院1年生	10月7日(火)	Uターン・Iターン希望者のための情報収集法や心構え。
・女子学生の就職・メイク講座	学部3年生・院1年生	10月8日(水)	活き活きと就職活動をするためのメイク講座。
・一般常識テスト	学部3年生・院1年生	10月9日(木)	筆記試験のうちひとつの柱である一般常識模擬試験を受けて、実力を確認しましょう。
・OBによるマスコミQ&A	学部3年生・院1年生	10月15日(水)	マスコミ業界から卒業生が講師として来校します。
外国人留学生対象セミナー	外国人留学生	10月15日(水)	外国人雇用サービスセンタースタッフによる就職活動の注意点。
・外資系企業	学部3年生・院1年生	10月20日(月)	外資系企業とはどんな企業なのか、採用試験等について説明します。
業界研究シリーズ：研究のすすめ方	学部3年生・院1年生	10月27日(月)	業界研究の仕方・目的をはじめ、業界の選び方について説明します。
・社会人マナー	学部3年生・院1年生	11月5日(水)	説明会、面接、OB・OG訪問。あらゆる場面で必要となる基本的なマナーについて。
・航空運航・客室乗務員ガイダンス	学部3年生・院1年生	11月7日(金)	航空業界の現状と採用の流れを説明します。CA(キャビンアテンダント)内定者の体験談も予定しています。
業界研究シリーズ：業界の現状	学部3年生・院1年生	11月10日(月) ～15日(土)	複数の業界をピックアップして業界の現状・課題について触れます。
・働く前に知っておこう!労働基準法セミナー	全学部・院生	11月18日(火)	社会保険労務士による、働く前に知っておくべきことのアドバイス。
エントリーシート対策講座	学部3年生・院1年生	10月～12月	「自己分析」「書き方」「フォローアップ」と分けて、自分らしい内容が書けるように同じ講座を2回実施します。
・4年生による就活体験報告会	学部3年生・院1年生	11月6日(木)	納得のいく就職活動をして内定を得た4年生が、後輩に経験談を語る。
・第二部学生による就職応援講座	第二部学生	11月11日(火)	内定を得た第二部の4年生が後輩に語る、学生生活や就活アドバイス。
面接対策シリーズ：心構え	学部3年生・院1年生	11月21日(金)	採用試験で必ず行われる面接に向け、自信を持って臨むための心構えを聞き、模擬面接へと繋ぐシリーズ。
・OBによる業界の「ホンネ」案内	学部3年生・院1年生	12月3日(水) ～5日(金)	複数の業界からOB・OGを招き、実際の業界の仕組みや現状を説明します。業界別相談会も開催します。
面接対策シリーズ：卒業生による模擬面接	学部3年生・院1年生	12月6日(土) 13日(土)	OB・OGの協力で本番さながらの模擬面接を体験します。
業界・企業研究セミナー	学部3年生・院1年生	11月～12月、 2月	業界をリードする企業の人事担当者やOB・OGによる説明会。教室形式およびブース形式。
公務員採用説明会	公務員志望者	10月中旬 ～下旬	国家・地方公務員採用担当者による業務内容、採用試験の説明。
公務員試験対策セミナー		10月22日(水)	2008年度の公務員採用試験の傾向と、来年度受験に際しての心構え。
公務員試験合格者報告会		12月17日(水)	公務員試験に合格した4年生による、勉強の方法やモチベーションの維持等アドバイス。
東京都・千葉県公立学校教員選考説明会	教員志望者	12月10日(水)	東京都、千葉県の教員採用選考担当者が、採用試験の実施状況などを説明します。
教員採用模擬試験		12月13日(土)	来年度教員採用試験受験者のための公開模試を、学内価格で実施。

※詳細が決定次第、掲示板、WebAsh(進路就職システム)等でお知らせします。

### 相模原キャンパス

	行事タイトル	対象者	日程	備考
理工学部生 理工学研究科生 社会情報学研究科生	就職ガイダンス・内定者報告会	学部3年生・院1年生	9月24日(水)	就職全般のオリエンテーション・就職内定した先輩の貴重な活動体験を聞く会
	就職適性検査	学部3年生・院1年生	10月1日(水)	どんな仕事を求めているか、自分を活かせる仕事は何か等を知る検査(有料)
	製薬業界説明会・業界内定者相談会	化学系3年生・院1年生	10月8日(水)	製薬・化学品会社等に内定した先輩による相談会
	一般常識テスト	学部3年生・院1年生	10月15日(水)	国語・数学・英語・社会・時事などの一般常識テスト(有料)
	SPI2模擬テスト	学部3年生・院1年生	10月29日(水)	多くの企業が実施している代表的適性検査(有料)
	エントリーシート対策講座	学部3年生・院1年生	11月5日(水)	自己分析・エントリーシートについて学ぶ、添削有り(有料)
	面接対策講座	学部3年生・院1年生	11月7日(金)	面接の意味するもの、ポイントの説明、模擬面接実施
	業種別内定者による報告・相談会	学部3年生・院1年生	11月11日(火) ～19日(水)	自動車・電気・IT・運輸通信などの企業に内定した先輩による相談会
	合同企業セミナー	学部3年生・院1年生	11月～12月	各業界のリーダー的企業による業界の仕事内容などの説明会
	模擬グループ面接	学部3年生・院1年生	1月16日(金) 17日(土)	第一印象、入退室マナー、人事の視点、頻出質問を知り突破力を養う
	学科就職ガイダンス	学部3年生・院1年生	1月14日(水)	学科就職担当委員による学校推薦方法、内部進学などの説明会
全学部全学年	企業説明会	学部3年生・院1年生	2月下旬	各企業の採用担当者を招き、学校で実施する企業説明会
	日経新聞読み方セミナー	全学部全学年	9月26日(金)	日本経済新聞を用い経済データの基礎知識や経済ニュースを見るポイントを学ぶ
	メーカーを知ろう	学部2・3年生・院1年生	11月14日(金)	多岐にわたるメーカー企業の職種を知り就職先の参考にする
1・2年次生	日本経済を知ろう	全学部全学年	11月21日(金) ～12月5日(金)	今何が起き、将来にどう影響があるかを、経済を視点に学ぶ
	キャリアデザイン講座	1・2年生	10月～12月	なりたい自分になる、社会で求められる能力など自分自身のスキルアップ
	4年生のアドバイス	1・2年生	11月12日(水)	企業を選択した基準は何か、1・2年生でやっておくべきこと等のトーク
	公務員試験対策講座	全学部全学年	1月10日(土)	春期講座、青山キャンパスでの対策講座の紹介

## オープンキャンパス開催報告

2008年度オープンキャンパスは、7月13日(日)に相模原キャンパス、7月20日(日)および9月14日(日)に青山キャンパスで開催しました。7月は相模原キャンパス・4,531名、青山キャンパス・15,184名、そして9月には、5,787名の高校生・受験生とその保護者の方が来場しました。計3回の総来場者数は、25,502名となり、過去最高の来場者となりました。新設の学部・学科紹介企画や青山スタンダード紹介、学部学科の英語入試問題解説や模擬授業等、さまざまな企画を実施しました。また青山キャンパスでは学生団体によるアトラクション、相模原キャンパスでは在学生のツアーガイドによるキャンパスツアー、そして、全日程にわたりボランティアによる学生スタッフが受付、案内、記念品進呈などで活躍してくれました。なお、社会人を対象とした大学・大学院説明会を7月26日(土)、青山キャンパスにおいて開催し、382名(昨年度386名)が来場しました。キャリアアップを目指す向学心の強い方が多く参加され、充実した説明会となりました。



相模原キャンパスでのボランティア学生のみなさん



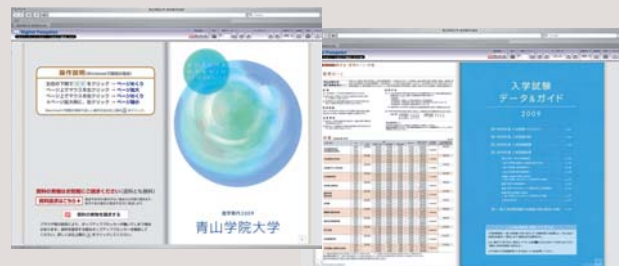
青山キャンパスでのボランティア学生のみなさん

## 「進学案内、入学試験データ&ガイド(2009年度版)」をウェブサイトで公開中

大学紹介パンフレット「進学案内2009、入学試験データ&ガイド2009」を本学ウェブサイトで公開しています。下記のアドレスにてご覧いただけます。(内容の一部抜粋)

<http://www.aoyama.ac.jp/admission/college/reference/index.html>

また、資料請求をご希望の方は、本学HP「入試・入学案内(学部):大学紹介パンフレット請求方法」から、あるいは自動音声電話テレメールを利用してご請求ください。



### アドバイザー・グループ紹介 18

## 体験から得た海外の情報を発信! <春山アド・グル>

学会などで海外に行く機会が多く、ほとんどの国を見て歩きました。そんな私自身の体験から仕入れた、ガイドブックには載っていない世界各地の生の情報を発信し、学生たちが海外文化に興味を持つきっかけにしたい、というのが春山アド・グルのコンセプトです。海外に行った経験のある学生からは、いろいろとそのときの様子をリサーチし、お互い情報交換できる場とし、大学時代に海外へ行きたいと計画している学生には、とっておきの情報をアドバイスしたいと考えています。

もし学生にオススメの旅先を聞かれたら、フランスの「パリ」とチェコの「プラハ」を挙げたいですね。ある意味、

海外旅行の“王道”かもしれませんが、どちらの都市も街並みが美しく、食事もおいしく、気軽に芸術に親しむこともできます。何度行っても、いくら居ても飽きない場所は、海外でも、そんなにいくつもありませんから。学生時代に海外で得た経験は、必ず自分自身を成長させるはず。そんな貴重な「思い出」づくりに、少しでもアド・グルの活動が役立てばうれしいと思います。



理工学部 春山純志 准教授

## AGUニュースについて

青山学院大学では、大学広報誌「AGUニュース」を年5回(1月、3月、5月、7月、10月)発行し、在学生の保証人の方々へ送付しています。また、在学生を対象としてキャンパス内AGUニュース専用スタンドにて配布しています。

●なお、「AGUニュース」を確実に保証人の方々へお届けするため、住所が変更になった場合は、住所変更の手続きをお取りください。

事務取扱窓口 青山キャンパス→学生部厚生課  
相模原キャンパス→チューデントセンター・学生生活グループ